
東方夢想人

フランドール・スカーレット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方夢想人

【Nコード】

N9001N

【作者名】

フランドール・スカーレット

【あらすじ】

これはとある青年が幻想入りする話である

1章 青年幻想入り

これは本当にいきなりの出来事だった。

俺の名前は中川大介^{なかがわ だいすけ}

字のとおり簡単過ぎる名前だ。

俺はいつものように友達と学校へ行き、
いつものように勉強して、
いつものように学校が終わり、
友達の家で遊んで家に帰る。

これがいつもの日課のようなものだった
しかし今日は違った……

学校が終わり友達の家遊びに行った
そこまではいつもどおりだった
だが今日は違った。

家に帰る時いつもと違う道を通ったのだ
その日は何故かいつもとは違う道を
通りたい気分だったから……

その時古ぼけた神社があったのだ
初めて来た道だった

「こんな所に神社なんてあったっけ？」
と言っている間に神社に興味があった為
足を動かして神社方へ向かったのだ

神社の敷地に入った瞬間に何か違和感を感じ
出ようと思ったが好奇心に負け
そのまま進んでしまった……

これが間違えだったのだ…

俺は更に奥へ行った。

そこで急に神社の扉が開かれ

俺は急に体の力が抜け

そのまま意識がなくなっただのだ…

そこで何時間たったのだろうか

目を覚ましてみるとそこには

見たことのない風景が広がっていた。

「う…ここは…どこだ…？」

だがしかし唯一近くに見覚えのある

風景があっただのだ…

神社だ…

まだ体が治りきつてはいなかったが

行くあてもないのでとりあえず

神社に行く事にしたのだ。

やはりこの神社だけは

さつきと変わっていなかった

ここがどこなのかも分からないので

とりあえず神社の中を

あさろうとしたその時、

近くで女の人の声が聞こえたのだ

「…あら、貴方こちら辺の人じゃないわね…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9001n/>

東方夢想人

2010年10月9日07時44分発行